

コミュニティ・スクールだより

第31号

名張市教育委員会事務局発行
令和4(2022)年1月26日

コミュニティ・スクールから スクール・コミュニティへ ～「学校と地域づくり組織等との連携・協働～」

子どもを核とした地域総ぐるみの協働活動 箕曲小学校×PTA×地域づくり委員会×市民センター

箕曲小学校の学校運営協議会は、学校経営方針や学校運営に関わって、各委員が当事者意識を持ち、幅広い視点での意見やアイデアを出し合うことで、学校運営がより円滑に進むようになりました。特に、学校、保護者、地域が「めざす子どもの姿」を共有し、熟議や協議を重ねることで、これまで培ってきた関係を大切にしながら、学校と協働した取組をさらに発展・深化させ、名張版コミュニティ・スクールの3つの柱「学校運営への参画」「学校支援の充実」「地域貢献の場づくり」に係る取組が充実してきています。箕曲小学校の連携・協働した運営や取組の一部を紹介します。

【第1回学校運営協議会の運営の工夫】

〈熟議「これまでの課題と今後の方向性」〉

昨年度までの取組を振り返り、学校や児童の課題を共有し、今後の方向性について、互いに知恵を出し合い協議を深めました。本年度の重点取組として、「あいさつ」「読書週間」「家庭学習」について、学校、地域、保護者の三者がそれぞれやるべきことを確認しました。また、「コロナ禍における地域との連携・協働について」もPTA、地域づくり委員会、市民センターが役割分担をしながら計画・実行していくことになりました。更には、様々な取組やすべての活動を通して、子どもたちの「自尊心」を育むことの確認がされました。

〈各委員がタブレット体験〉

授業参観の後、児童が毎朝行っているタブレット端末を活用した健康観察について、各委員が端末を手に触れて体験いただくことで、これからの教育実践について、共通理解が図られました。



★ワンポイントアドバイス★

学校運営協議会において、「学校基本方針の承認」を行います。その「承認」とは、OK「それでいいよ！頑張ってください！」ではなく、Let's「一緒にやってみましょう！」ということです。みんなで考え、みんなで決めて、みんなで実践・協働するということです。協力者ではなく、当事者として、同じ方向で一緒に考え実行することが大切です。

コミュニティ・スクールは、学校と地域・保護者が、目的や目標を共有し、その達成や解決に向けて協議を重ねることがなによりも重要！

【第2回学校運営協議会の熟議】

「少人数を生かした学校運営・地域との連携」について、各委員と教職員、保護者が熟議を行いました。

先生方には、日ごろからきめ細やかな指導をいただいている。このことに感謝し、それぞれの持ち場で着実に進めていこう！
それぞれが意識をして声(言葉)をかけていこう！



【学校支援の充実】

① ボランティア交流会

日頃、様々な形で活動するボランティアの皆さんが、つながれる場になっている。

② 昔遊び、陶芸、しめ縄・かかし作り等の体験教室

地域の方を講師に迎える。

③ 学校田での米作り

地域の酒米サポーターさんの協力のもと実施。感染症対策により全校での取組を見送ったが、5年生からの発信により、全校児童への意識付けを図ることができた。

④ 学校の環境整備(草刈り等)、通学路の草刈り

地域の環境部の方が中心に活動。

もちもちの日
(5年生から発信)

⑤ 民生委員を中心に下校をサポートの実施。



体験教室



【地域貢献の場づくり】

① 箕曲文化祭(12月)

会場として、学校の体育館を開放。「体験教室」で作製した児童の作品を展示。参加した児童には「箕曲のキラリさんみつけよう」と呼びかける。タブレットで気に入った作品を写真に撮り感想を添えて提出。児童の感想をまとめ、市民センターに掲示した。

② 地域ボランティアによる学習支援「はなももくらぶ」

箕曲市民センターとの協働で、夏休みの3日間学校図書館を開放。「箕曲の紙芝居」「バレエアート」「英語を楽しもう」の講座を開設した。

③ 箕曲探検物語(地域フィールドワーク)

箕曲地域づくり委員会子ども育成部会とともに実施。地域への愛着を深める行事として、積田神社にてお気に入りの場所をタブレットで写真撮影し、作品を箕曲文化祭で展示した。

④ 人権コンサート

PTA・地域づくり委員会共催。感染防止のため、6年生のみが対面、他学年、保護者、地域の方はリモートで鑑賞した。

⑤ 3年生が市民センターを見学し、センターの役割について学習。「体操サークル」の方とともに活動し交流。



コミュニティ・スクールだより

第32号

名張市教育委員会事務局発行
令和4(2022)年2月16日

名張市小中一貫コミュニティ・スクール 推進協議会 開催

2月7日(月)に名張市小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会を開催しました。この協議会は、地域づくり代表者、保護者代表、代表校長、教頭代表、教職員代表、事務局職員で構成され、各学校の取組の進捗状況や課題を共有し、今後の推進や方向性について検討する目的で開催しています。

今回は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、参加者を各中学校区代表校長と事務局担当者に縮小し、感染対策を講じた中での実施となりました。まず、小中一貫教育及びコミュニティ・スクール(以下、CS)の推進状況について事務局から行政報告があり、その後、CSの推進に関して、「学校・地域・家庭の連携・協働の更なる推進に向けて」をテーマに、以下のような協議が進められました。

★学校間の取組の温度差

学校運営協議会の運営及び連携・協働の活動について、各学校の進捗状況や深まりに温度差が見られる現状から、各中学校区及び各学校の課題を出し合い、共有することから始めました。



【ホワイトボードを活用して、考えを整理し議論を深める】

☆なぜ、CSが必要か？

- ・保護者や地域住民との関わりの中で、子どもを育てることが大切。子どもの実態から課題を共有し、課題解決のためにも必要。学校での教育だけでは限界もある。
- ・夢の実現のため。 ・子どもは地域の宝である。
- ・地域住民と連携・協働することで、教育に厚みが出る。
- ・学校への苦情からの脱却、保護者・地域が学校の後ろ盾となる。
- ・10年後、20年後のよりよい未来をつくるため。
- ・持続可能な社会の実現のため。
- ・名張市の生き残りのため。(意見より一部抜粋)

☆CSは、学校の役に立っているか？

☆CSの存続に向けて推進しているか？



コミュニティ・スクールを
基盤にした小中一貫教育
の実現に向けて



- ・連携・協働した取組から、子どもの成長を感じる。
- ・地域住民とともに活動することで、子どもの有用感が育まれるなど、子どもの変容を感じている。
- ・校長の姿は大きく見えるようになったが、先生方の姿が見えにくい。
- ・目に見える形にすることで、地域住民や保護者も認知度・理解度が上がり、前向きになってきた。
- ・防災訓練等を地域とともに実施したことで、新たに見えてきたこともある。
- ・打ち上げ花火的なイベントではなく、地道な活動や継続した取組が大事。(意見より一部抜粋)

CSの推進(学校・地域・家庭の連携・協働)

のための校長の役割とは？(意見より一部抜粋)

◎リーダーシップの発揮

学校運営協議会をどう進めるかは、校長のビジョンや意図、方向性にかかっている。一本の筋の通ったものがあるとよい。地域住民や保護者、教職員が当事者意識を持って主体性を発揮していく取組が大事！出てきた意見を実現させ、取組や成果等を発信することが大切！

◎つなぐ役割であり、広告塔

学校、地域が、持続可能な場づくりを意図的に仕組んでいくこと。そのために、人と人、人と学校、学校と地域をつなぐ役割が大事！広告塔の役割も！

◎仲間を増やすこと

学校運営協議会委員の主体的な意識と取組のためのマネジメントが大切！！多くの賛同者を増やし、まずは、信頼関係づくりに努めること。

西山教育長より



CSは、学校運営の厚みを増すためのもの。

各学校の状況が違うが、現状を踏まえて、次にどのようにステップを進めるか?!

校長が学校のめざす子ども像を職員に語れているか?!

職員の中で語り合いがあるか?!
「学校愛」
「子ども愛」

コロナだからできない、しないのではなく、共に考えることからはじまる。

4月のリセットでは遅い!PDCAサイクルをスパイラルで!

- ◇校長の「カリキュラム・マネジメント」が重要。校長の意図したものに。
- ◇これまでの運営協議会での議論のあり方や熟議の持ち方・内容、協働の取組について、**振り返りと吟味が必要**。何ができて、何ができなかったか。見通しを持ったものであったか。意図したステージへの仕込みが充分であったか。教職員や児童生徒、小中学校の関わり方、何をねらったものかなど、意図した切り口になっていたか。
- ◇地域とともに**仲間を増やし、いかに絵(構想)を描き、織り成して**いくか。
- ◇**学校・家庭・地域が総ぐるみで、いかに子どもから地域を変えていけるか**。そのことが、**スクール・コミュニティへとつながっていく**。

コミュニティ・スクールだより



第33号

名張市教育委員会事務局発行
令和4(2022)年3月9日

『コミュニティ・スクール 実践集2021』発行

本年度のコミュニティ・スクールの特色ある活動や実践を集めた『コミュニティ・スクール実践集2021』を作成しました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、三重県や名張市にまん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発令されるなど、長引くコロナ禍においても、互いに知恵を出し合い、工夫をしながら実施した各学校の様々な事例をはじめ、来年度以降の推進のためのヒント、また、「コミュニティ・スクール」の連携・協働した取組を子どもを核とした地域づくりである「スクール・コミュニティ」に発展させていくためのアイデア等が満載です。

『コミュニティ・スクール実践集2021』は、名張市公式HP <https://www.city.nabari.lg.jp/> で公開しています。是非ご覧ください。

※名張市公式HP内の掲載場所は下記のページです。
<https://www.city.nabari.lg.jp/s057/010/040/080/20201126154148.html>



コロナ禍においても、子どもの学びや成長のため、「今だからこそ、気付けることがある」、「今だからこそ、できる教育活動がある」、「今だからこそ、鍛えられる力がある」と信じて、学校と家庭、地域が互いに連携・協働するコミュニティ・スクールの推進を図ることが重要と考えます。

今後も各々が当事者意識を持ち、熟議の中で互いに知恵(アイデア)を出し合い、地域づくり組織等と連携・協働しながら子どもの豊かな学びと健やかな成長を支え、学校が地域コミュニティの絆や生きがいつぶりの核となるため、よりよい方策を生み出していきたいと思います。

★未来の創り手を育てよう! ★子どもはみんなで育てよう!

コミュニティ・スクール
実践集2021



令和4(2022)年3月
名張市教育委員会

コロナ禍での学校運営協議会の開催に苦慮 時間短縮、WEB開催、役員開催、書面開催等で工夫

新型コロナウイルス感染症の感染が急拡大する中、三重県がまん延防止等重点措置期間のため、各学校では、本年度最後の学校運営協議会の開催に苦慮していました。本来ならば、本年度の学校運営の評価や活動の総括、次年度に向けての方向性等を話し合う重要な機会と考えていたはずですが、オミクロン株の感染拡大状況が収束しない中で、開催を見合わせざるを得ない学校が増えてきました。

次年度における学校運営及びコミュニティ・スクールの取組等のスタートがスムーズに進められるよう、引継ぎや方向性の確認を確実にお願いします。

そのような中で、大きな教室で換気を十分に行いながら感染防止対策を講じた中での開催や、時間を短縮しての開催、参加者を制限しての役員開催や部会長での代替開催、書面での開催等、実情に応じて開催されています。一例ですが、名張中学校では、WEB会議が開催され、約半数の委員がZOOMで参加しました。初めての試みではありましたが、「会議はしておくべき」との声を大切にした結果であり、スライドや動画による提案等、教職員も役割分担をして会議運営に参加する協力体制が見られました。



【名張中学校】
ZOOMによる
WEB会議

子どもたちに、今、必要なものは?!

今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、改めて学校・家庭・地域の役割分担や連携・協働することの重要性が浮き彫りとなってきています。

保護者や地域住民の皆さんが「当事者」として学校運営に参画し、めざすべき目標を共有し、その目標達成のための十分な熟議・協議をしたうえで、学校と家庭・地域が連携・協働して対処することができる体制を制度的に保障していることに、コミュニティ・スクールの意義があります。

コミュニティ・スクールは、学校・保護者・地域住民で「共に創っていくもの」=「共創」ではないかと考えます。これからの社会を形成する子どもたちが、自らの人生を切り拓いていくためにも、教育課程の改善・充実や特色のある学校づくりなど学校運営には、各々が主体性を持って対話に基づく相互尊重が求められます。

継続してこそ、信頼関係が築かれ、継続してこそ、成果が表れてきます。更には、立場を越えたつながりが生まれてくるはずですが。

このようなことから、もう一度原点に戻り、「子どもたちに、今、必要なものは?!」、「子どもたちに、今、必要な力は?!」、「それぞれが何をすべきか?」…と互いに議論してみたいかがでしょうか。

主体性

継続

信頼

つながり

共創

コミュニティ・スクールだより



第34号

名張市教育委員会事務局発行
令和4(2022)年10月5日

「CSカレンダー」が有効！

令和4年度の下半期が始まりました。各校でのコミュニティ・スクールの取組は、それぞれの学校で独自色が出てきました。どの学校でも経営方針に基づいた具体的な取組が進められています。

取組を進める中で見えてきたことは、「学校全体として、いつ、どの学年が、どのような活動をしているのか(しようとしているのか)分かりにくい」という点です。中には、これまで継続してきた取組が、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて途絶えてしまい、ご支援いただいている方が分からなくなっているなど、引継ぎに課題が見られるケースもあります。

このような状況下において、市内の小学校で、教職員をはじめ地域住民、保護者等に、誰でも一目でわかるようにと、コミュニティ・スクールに関わる取組の年間計画(「CSカレンダー」)を整理する取組が進められています。今回は、その一部を紹介します。

○箕曲小学校(一部抜粋して掲載)

	4月	5月	6月
学校	授業参観 学級懇談会 (4/22)	田植え(5/9) 遠足(5/17) こっこつ週間 (5/9~5/14) クラブ活動 (5/27) 運動会(5/28)	クラブ活動 (6/20) 全校集会 (6/22) 学校運営協議会 (6/1) ボランティア交流会(6/9)
PTA 家庭	PTA総会(4/22) (書面決済) 《常》 登下校支援	運動会5/28 田植え5/9	交通安全教室 6/8
地域	ゲストティーチャー(〇〇さん) 4/27 《常》 登下校支援	田植え5/9 遠足5/17 ゲストティーチャー(〇〇さん) 5/20 読み聞かせ 5/11 25 さつまいも苗植え 5/28 引率補助 5/16 24 31	プール清掃6/4 桃ハウス 草刈り 6/4 19

「学校」「PTA・家庭」「地域」それぞれの立場から、月別取組内容を明記！

作成にあたっての校長の意図・ねらい

- ・学校としてのCSの取組の取組像を全教職員で把握したい。
- ・各取組の関連性を見える化し、内容を精選したい。
- ・地域の方にも共有していただきたい。

○蔵持小学校(一部抜粋して掲載)

	8月	9月	10月	11月	12月
1年		音遊び ・高齢者学級 ・ボランティア	芋掘り		
2年		野菜苗植え・世話・収穫(学校畑)	バスの乗り方教室	おもちゃランド	まち探検 (こども園)(ひだまり)
6年			ハンティングデール交流		被弾ピアノ 平和学習(いきいき)
学校全体	PTA環境整備 運動場草刈り		蔵持市民センター祭り 学校運営協議会 ハンティングデール交流		

全学年の取組内容を月別に明記。学校全体に関わる取組は別枠で！

作成にあたっての校長の意図・ねらい

- ・計画的に余裕をもって取組を進めたい。
- ・各取組の確実な引継ぎにつなげたい。
- ・教職員が地域を知るきっかけにしたい。

「CSカレンダー」が有効な点

・学校と地域の協働取組の全体像が見える

一部の学年や特定の時期だけでなく、学校全体の年間を通じた取組を「見える化」することで、学校内だけでなく学校と地域等との情報共有が進むとともに、教科との関連性を含めた内容の確認・精選が可能になります。

・計画的な取組ができる

「いつ、何をやる」という具体が見えることで、関係する全ての人が見通しをもって準備や活動に当たることができ、活動に余裕が生まれます。特に新しく担当することになった職員や地域の方にとって、活動のヒントになります。

・持続的な取組が可能になる

取組を「見える化」することで、関わっていただく方が増えるとともに、CSについての理解度が高まり、継続した取組につながることが期待できます。

「社会に開かれた教育課程」
～カリキュラム・マネジメント～

作成校からの声！(箕曲小)

- ・教職員をはじめ保護者や地域の方が新年度当初に見通しをもってスタートすることができるようになった。
- ・学校運営協議会委員も含め、地域の方にもたいへん好評。
- ・今まで教職員が知らなかった地域の動きを知ることができ、地域行事への参加のきっかけとなった。

作成校からの声！(蔵持小)

- ・学校運営協議会で出された多数の取組案を整理したことがきっかけ。
- ・市民センターにも掲示していただいております。たいへん好評。
- ・市民センターをはじめ、外部との打合せも機を逸することなくスムーズに行うことができるようになった。
- ・全職員が随時更新できるようにしたい。

作成のポイント！

- ・学校や児童生徒、地域の課題を的確に捉えている。
- ・校長の意図・ねらいが表れている。

コミュニティ・スクールだより



第35号

名張市教育委員会事務局発行
令和5（2023）年 2月10日

「意図」が見える コミュニティ・スクールの取組へ

充実したCSに向けて「意図」や「思い」の共有！

市内の小中学校では、新型コロナウイルス感染症が拡大して以降、授業参観や学校行事等、地域から来校いただく機会が減っています。同時に、地域の方と学校が互いの思いを共有する機会も、少なくなっています。コミュニティ・スクール（以下、「CS」）の取組には地域の方の参画が欠かせません。学校の課題を把握する中で、「この取組でこのような力を子どもたちに身に付けさせたい」など、取組に込められた「意図」や「思い」を学校と地域が共有することで、実践後の子どもの姿が違ってきます。より効果的な取組にするためにも、常日頃からの学校と地域住民や保護者との綿密な情報共有が重要となってきています。

学校運営協議会への教職員参加の工夫

学校運営協議会への学校側の参加者は、校長・教頭の管理職と一部の担当教職員というのが、多く見られます。教職員参加が進むことによって、学校と地域の関係性が向上する他、各種取組のスピード感や当事者意識も向上することが期待されます。

市内では、複数の学校で開催時期や時間等を工夫し、できるだけ多くの教職員が参加できるようにする動きが見られます。薦原小学校では、夏季休業期間中に、全教職員参加の学校運営協議会が開催され、子どもたちと触れ合う中で感じたことを、伝え合う機会を持ちました。学校運営協議会委員から出された意見をいくつか紹介します。

- ・「グングン先生」（子どもたちへの学習指導補助）では…（中略）…やり方を教えてできるようになったときにとても喜んでくれる。自分も嬉しく、やりがいがある。」
- ・「センター職員が草刈や花壇の整備をするので、いつでも言ってほしい。」
- ・「ボランティアの活動は本当に楽しい」

薦原小学校の他、蔵持小学校、箕曲小学校、比奈知小学校においても、学校運営協議会への教職員の積極的な参加の取組が行われています。



全教職員参加の学校運営協議会
(薦原小学校)

CSと一体的に取り組む

「地域学校協働活動」とは・・・

地域づくり組織等において進める「地域学校協働活動」とは、地域住民、保護者、企業等、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「子どもを核とした地域づくり」を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

<地域学校協働活動の例>

学びによるまちづくり・ 地域課題解決学習・郷土学習

- 地域資源を理解し、その魅力を伝えたり、地域活性化のための方策を考え、実行する学習活動
- 「ふるさと」について地域住民から学び、自ら地域について調べたり発表したりする学習活動
- 地域の産業や商店街の職場体験学習、郷土の伝統・文化芸能学習 など



放課後子ども教室

- 地域住民の参画を得て、放課後等に全ての児童を対象として行う、学習や体験・交流といった多様な活動



地域未来塾

- 全ての児童生徒を対象に、教員OBや大学生などの地域住民の協力によって行う学習支援



家庭教育支援活動

- 寄り添いが必要な子供、不登校傾向のある子供等への対応について、保護者が学び合う機会づくり など



学校に対する多様な協力活動

- 登下校の見守り、花壇や通学路等の学校周辺環境の整備、子供たちへの本の読み聞かせ、授業の補助や部活動の支援、企業等による出前授業等の教育プログラムの提供 など



地域の行事、イベント、お祭り、 ボランティア活動等への参画

- 地域イベントにおけるボランティア体験学習、伝統行事やお祭りでの伝統文化・芸能の発表や楽器の演奏、地域の防災訓練への参画 など



(文部科学省「これからの学校と地域」より)

文部科学省ではCSと地域学校協働活動の一体的推進を推奨！

コミュニティ・スクールだより

名張市教育委員会事務局発行
第36号 令和5(2023)年2月22日

コミュニティ・スクールと 地域学校協働活動の一体的推進へ

「文部科学大臣表彰受賞」

～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進～

児童の課題に基づいた「熟議」



箕曲小学校のコミュニティ・スクールとしての取組が文部科学大臣賞を受賞しました。箕曲小学校学校運営協議会（以下、「協議会」）では箕曲地域づくり委員会と一体となって、地域学校協働活動をはじめとする様々な取組が行われています。この度、協議会と地域学校協働活動の取組について審査が行われ、受賞が決定しました。

まず、協議会の取組についてです。箕曲小学校の協議会において大切にされていることは、「課題解決に向けて、協議会としてできることは何か検討すること」です。具体的には、子どもたちの自己肯定感・有用感を高めていくために、どのような手立てが考えられるのか、委員それぞれが意見を出し合いました。

協議会と一体となって実施された「地域学校協働活動」

次に「地域学校協働活動」についてです。箕曲小学校の課題である自己肯定感・有用感の向上をねらいとした、協議会と地域の一体となった取組が「みのわ冒険の旅」です。これまで個別の行事として実施されていた複数の行事を取り込むことで、より多様な体験・経験を通じて、自己肯定感・有用感の向上につなげられるよう工夫もされました。具体的には異学年で構成されたグループで校区内に設置された5つのチェックポイントを巡り、各ポイントで地域コーディネーターが選定した説明担当ボランティアから、歴史や地域の想いを聞かせていただきました。あわせて道中では見守りボランティアが同行し安全を確保しながら、一緒に清掃活動にも取り組みました。取組を進めるにあたり、地域コーディネーターが学校と地域の橋渡し役となり活動することで、効果的に進めることができています。名張市では現在、地域コーディネーターに代わる立場として「地域学校協働活動推進員」の設置に向けて準備を進めています。



なぜ今、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動？

近年、学校と地域を取り巻く課題が複雑化、多様化しています。「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という学習指導要領の目標を学校と地域が共有し、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校と地域が連携・協働のもとに学校づくりと地域づくりを進め、一体となって子どもたちの成長を支えていくことが必要です。

「地域とともにある学校づくり」と「子どもを核とした地域づくり」を併せて実現するために

＜背景＞時代の変化に伴い学校と地域の在り方が変化

教育環境を取り巻く状況

- ・児童生徒数の減少
- ・子どもの規範意識等への課題
- ・学校が抱える課題の複雑化・困難化



社会の動向

- ・少子高齢化の進行
- ・Society5.0への急速な変化
- ・地域社会のつながりや支え合いの希薄化による地域の教育力の低下

教育改革の動き

- ・「社会に開かれた教育課程」の実現
- ・働き方改革の推進
- ・学校DXの推進

求められるものは

- ・これからの時代を生き抜く力の育成(学校だけでは得られない知識・経験・能力)
- ・地域住民が自ら地域を創っていくという「主体的な意識」への転換

そのためには

学校と地域の連携・協働が必要

具体的な取組として

「目標」や「ビジョン」が共有された

コミュニティ・スクール

地域学校協働活動

その結果

地域とともにある学校づくり

子どもを核とした地域づくり

併せて実現

参考：文部科学省「これからの学校と地域」

コミュニティ・スクールだより

第37号

名張市教育委員会事務局発行
令和5（2023）年 2月28日

名張市小中一貫コミュニティ・スクール 推進協議会 開催！

【第1回小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会】

キーワードは「当事者意識」



令和4年11月1日（火）、第1回小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会（以下、協議会）が開催されました。この協議会は、地域づくり代表、保護者代表、中学校区代表校長、教頭代表、教職員代表、事務局職員で構成され、各学校の取組の進捗状況や課題を共有し、今後の推進や方向性について検討する目的で開催しています。

まず、コミュニティ・スクール（以下、CS）と小中一貫教育の進捗状況について、事務局からの報告後があった後、2グループに分かれて、熟議を行いました。多くの建設的な意見が出される中で、子どもも保護者も地域も、「お客さん」にならない（しない）ことが重要であり、関わる人々の当事者意識をいかにして高めていくかが今後の課題であると提起されました。また、見える化された年間の活動予定を、学校、地域、保護者の三者が共有することで、計画的な活動につながり、さらに担当者（組織）を明確にすることで、責任感が高まるとの意見が出されました。あわせて、関わった取組が子どもたちの成長にどのようにつながっているかが明記されると、関わった者の自己有用感も高まるのではないかと意見も出されました。

【第2回小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会】



令和5年2月10日（金）、第2回協議会が開催されました。この協議会には、山口県地域連携教育エキスパートの木本育夫さんに名張市までお越しいただき、ご講演いただきました。木本さんには、これまでも名張市のCS推進に多くの助言をいただいております。今回CSを推進・充実させていくために必要なことについて、改めて教えていただきました。

1. 講演「未来を共に創る これからの学校と地域」

（山口県地域連携教育エキスパート 木本育夫さん）



名張市では市内全小中学校がCSとなって3年目となり、CSを基盤とした小中一貫教育に取り組んでいます。それぞれの学校によって、知恵を出し合い地域の特色をいかした取組を充実させています。しかしながら、進捗の状況や取組の深まりに温度差が見られることも事実です。そこで、今後の取組を充実させるために、木本さんから上記テーマに基づいてご講演いただきました。

＜木本さんの言葉＞（一部抜粋）

- ・「小中を切らない。9年間という意識を持つ。」
- ・「CSは漢方薬のようなもの。じわじわ子どもに効いてくる。」
- ・「CSに完成形はない。まず、本年度を振り返り、課題を見つけ、来年度に繋いでいく。」
- ・「できることを、できる範囲で、一歩ずつ進める。まずは、楽しく！」
- ・「学校によって現状や課題等は違う。その学校らしさをいかす。」
- ・「教職員の異動に左右されない学校と地域の関係をつくる。」
- ・「地域、保護者の意見が届きやすい仕組みづくりが必要。」
- ・「学校運営協議会に至るまでのコミュニケーションを大切にする。」

2. グループで討議

木本さんの講演を受けて、「CSをさらに推進・充実させるために大切にしたいこと」～すべての関係者の視点から～というテーマで、グループ討議を行いました。出された意見の一部を紹介します。



＜討議で出された意見＞（一部抜粋）

- ・「中学校区で、めざす子ども像、校区像を共有する。」
- ・「先生方の思いをもっと知って、共に進んでいきたい。」
- ・「これから色々なことができそうで、わくわくする。」
- ・「無理せず、楽しく取り組んでいきたい。」
- ・「子どもの変容を周囲が共有することが大切だ。」
- ・「当事者意識を今後も高めていく必要がある。」
- ・「地域学校協働活動推進員の設置が必要だ。」

3. 西山教育長からのメッセージ



協議会閉会にあたり、西山教育長よりメッセージを頂戴しました。

- ・「伝えていただいたキーワードを自分事として理解し、自分の言葉で語ること、そして行動に結び付けていく。」
- ・「9年間の学びと育ちを意識し計画表を作っているか？」
- ・「苦しさの中にも、楽しいと感じることを大切に。」
- ・「絶えず耕し続け、新しい空気を入れる。そこに、根は育つ！」

YouTube限定配信

協議会の様子はYouTubeを通じて、教職員及びコミュニティ・スクールに関わる皆様を対象として、**限定配信**します。詳細は別途、お知らせいたします。ぜひ、ご覧ください！



コミュニティ・スクールだより

第38号

名張市教育委員会事務局発行
令和5（2023）年 5月10日

充実したコミュニティ・スクールの 推進に向けて！



5月8日から新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが2類相当から5類になり、学校生活にも少しずつ変化が見られます。コミュニティ・スクール（以下、CS）の活動にも、コロナ禍以前の取組内容を参考に、積極的に取り組もうとする様子が感じられます。

今回は、「当事者意識」をはじめとして、充実したCSを推進するにあたり、大切にしたいことや地域学校協働活動についてまとめています。ぜひ、ご覧ください。

【当事者意識の醸成にむけて】



子どもに関わる全ての人々が「当事者意識」を持つことの大切さについては、「コミュニティ・スクールだより」（以下、CSだより）第37号でもお伝えしました。CSに関わる取組を進める上で「解決すべき課題は何なのか」を共有した上で、解決に向けて**共に知恵を絞り考え合うことが大切です**。また、取組を進めるにあたって、**何のために企画されているのか**を一人ひとりが理解することも大切になります。

そのためには、設定された会議だけではなく、常日頃からの何気ない会話を含めて、**コミュニケーションの機会をしっかりと持つことが、何より重要**です。

【明確で具体的な方向性を示す】



学校運営協議会（以下、協議会）では「学校経営計画」の承認のほか、子どもたちに関わる取組について、多くの協議がなされます。その際、学校の課題や目指す子どもの姿等について、**具体的に伝えることがポイント**です。例えば「いきいきとした子ども」を目指そうとしているのであれば、どのような姿が「いきいき」した姿

なのか、具体的なイメージを話し合い、委員同士で共有することが大切です。協議会の開催時間は限られますので、資料の事前配付やスライドを使った説明等、事前準備を着実に進めておくと、より理解が深まります。

【思いが通い合う協議会を目指して】

市内の複数の学校で、協議会にできるだけ多くの教員が参加できるように、開催時期や開始時刻を工夫する動きが見られることは、以前お伝えしたところです。複数回実施される協議会の内、いずれか1回でも、行事等の状況を考慮して夏季休業中に開催したり、開始時刻を放課後に設定したりすることで、より多くの教員が参加できるようになります。このような工夫をすることで、協議会委員と教員とが、顔が見える関係となり、良い結果が期待されます。

＜期待されること＞

- ・教員との距離感が近くなり、情報共有がしやすくなる。
- ・何気ない場面で見せる子どもたちの様子など、普段伝えきれない子どもたちの細かな様子や地域の者として感じることを直接伝える事ができる。
- ・日頃、直接言葉を交わすことが少ない地域の方と話すことで、子どもたちへの思いを共有することができる。
- ・協議会委員の方に感謝の思いを直接伝えることができる。



【CSと地域学校協働活動】



協議会を設置している学校のことをCSといいますが、CSが将来的に目指す姿とは何でしょうか？ 現在、地域社会や学校において、多くの課題があります。その多くは、地域や学校だけでは解決が困難なものです。子どもたちや地域の輝く未来を創るためには、「社会総掛かり」

での対応、学校・家庭・地域による一体的な取組が必要ですが、その有効な仕組みの一つがCSです。合わせて、この「社会総掛かり」での対応の一つであり、学校と地域が一体となって子どもたちの成長を支えていく仕組みが、**地域学校協働活動**です。この地域学校協働活動についてはCSだより第35・36号でお知らせしましたが、CSと**地域学校協働活動**は車の両輪のように、相互に関わり支え合いながら、子どもたちの成長を支えていく仕組みです。市内全小中学校がCSとなって、本年11月で丸3年となります。昨年度には、CSカレンダーのほか、上記のような、新たな形での協議会の実施など、より充実したCSを目指して、新たな取組が進められています。次号では、このCSが創設された経緯や目的を改めて取り上げ確認することで、より充実した取組へつなげていきたいと思っております。

YouTube配信延長中



去る2月10日に開催された「第2回 小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会」の様子をYouTubeを通じて、限定配信していますが、**期間を延長して配信を継続**しています。**CSの必要性やその魅力、大切にしたい点**など、文部科学省元CSマイスターの木本（このもと）さんが熱く語られています。**職員研修でも活用**していただける内容です。ぜひ、ご活用ください。

コミュニティ・スクールだより



第39号

名張市教育委員会事務局発行

令和5（2023）年10月5日

コミュニティ・スクールの目的を共有して、より充実した取組へ！

【CSの目的とは…】



学校運営協議会（以下、学運協）を設置している学校のことをコミュニティ・スクール（以下、CS）といいます。そもそもCSの目的とは何でしょうか？現在、学校や地域社会において、多くの課題があります。その多くは、それぞれ単独での解決が困難です。子どもたちや地域の輝く未来のためには、社会総掛かりでの対応、学校・家庭・地域による一体的な取組が必要です。その有効な仕組みの一つがCSです。市内全小中学校がCSとなつて、本年11月で丸3年となる今だからこそ、改めて経緯や目的を再確認することで、より充実した取組へつなげていきましょう。

【当事者意識を育んでいくためには？】



学運協の取組はCSにおける牽引役、いわば車のエンジンにあたります。そのエンジンを動かす原動力の一つとなるのが当事者意識です。当事者意識は燃料のように消費されるわけではありませんが、最初からあるわけではなく、育み高めていく必要があります。当事者意識を育み高めていく手立てには次のようなことが考えられます。

- ① 必要性や意図を共通理解する
CSや学運協、学運協委員の必要性や意図について、共通理解を図る。
- ② 目指す方向を共有する
学校教育目標や育てたい子どもの姿等を、学校と家庭、地域の三者が共有する。
- ③ 情報を共有する
学校が把握している子どもの教育に関わる情報について、成果だけでなく課題も含めて、三者が共有する。
- ④ 思いを語り合う
①から③を基に、三者が熟議等を通じて語り合う。
- ⑤ 具体的な行動計画を立てる
手立てや手法、期限や担当等、具体的な行動計画を、短期や中期、長期の目標と合わせて考え合う。
- ⑥ 明確な役割を持つ
三者が役割分担をしながら責任を持って取り組む。
- ⑦ 点検・評価の実施
P（計画）D（実行）C（点検）A（評価）サイクルを回して、常に点検・評価を行い、次につなげる。

【「段取り八分」の実践】



事前準備の大切さを表す言葉に、「段取り八分、仕事二分」があります。前もってしっかりと段取り（準備）をしておけば、目的の80%は達成したという意味です。学運協はまさしく「段取り八分」です。例えば年間の取組の方向性を協議する際にも、会長をはじめとした委員や地域の方、教職員に対して、必要に応じて事前に資料提供したり、説明や打合せを十分したりすることで、課題がより明確になり、共通理解が進むこととなります。また、会議当日を迎えるまでに、各委員が課題に対してしっかりと向き合うことができるようになります。これは、学運協に関わる人の当事者意識を高めることにもつながり、CSを充実させる基本となります。

【子どもたちの思いを学運協へ】



市内の複数の学校で、学運協の運営に子どもたちの思いを生かそうとする動きが見られます。錦生赤目小学校では、校区にある子どもたち自身が感じる課題について、児童が直接、学運協委員の皆さんに向けて伝える授業が実施されました。子どもたちは、授業に向けて、「錦生地区・赤目地区を盛り上げていくために、どんなことができるだろうか？」や「地域の皆さん（大人）に教えてほしいこと」をテーマに議論を重ね、当日を迎えました。課題や地域の方に取り組んでほしいことだけでなく、自分たちにできることについても考え、伝えようとする場面も見られました。



また、赤目中学校では、生徒が学運協委員をはじめとする地域の方に対して、地域行事について提案する場が設けられました。地域で開かれる夏祭りに企画段階から参画し、実際の夏祭りにも主催者側として取り組むことにつながりました。

これらの取組に共通しているのは、子どもたちを「お客さん」として捉えていないことです。もちろん、提案の具体化には大人のサポートが必要になりますが、子どもたちが感じていること（課題や思い）を積極的に受け止め、学運協の運営に反映させています。

【小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会が開催されます】



10月13日(金)に小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会が開催されます。前半に山口県光市教育委員会の木本育夫さんから、CSや学運協の意図や意義について講演をいただく予定です。講演の様子については、今後、本だよりで紹介いたします。


コミュニティ・スクールだより

第40号

名張市教育委員会事務局発行
令和5(2023)年10月31日

小中一貫コミュニティ・スクール 推進協議会開催！


【いま改めて考えたい、CSの意義や意図】



名張市小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会を、10月13日(金)に開催しました。前半を行政報告と講演会、後半を熟議という2部構成で実施し、行政報告では、小中一貫教育とコミュニティ・スクール(以下、CS)の名張市における現状等などについて報告しました。講演会では山口県から地域連携教育アドバイザーの木本育夫さんに講師としてお越しいただきました。木本さんからは、名張市内全小中学校がCSとなって4年目を迎えるにあたり、CSの意義や意図、学校運営協議会(以下、学運協)の役割等について、改めてお話をいただきました。

【テーマ「これからの学校と地域」】

～CSと地域学校協働活動の一体的推進～



木本さんからは、CSと地域学校協働活動という、大きな2つのテーマについて、お話をいただきました。以下、その内容の一部を紹介します。

<CSとこれまでの仕組みの違い>


法律に基づき、学運協の役割や権限が明確化されているため、**家庭や地域等が学校だけに任せることなく、学校運営の当事者として**、自立した学校と対等な立場で、継続して**学校運営に関わることができる**ことが大きな違いであり、意義となっている。

<CSの役割>

家庭や地域等が当事者として学校運営に参画し、めざすべき目標を共有し、その目標達成のための十分な協議をした上で、**学校と家庭、地域(以下、三者)が協働して取り組む**。

<CS運営のポイント>

- ・何より大切なのは三者のコミュニケーション
- ・CSは信頼関係や協働体制づくりのための制度であることを理解する
- ・学運協委員が役割を果たすためには、学校の仕組みやルールを学ぶ機会が必要
- ・家庭や地域の意見が届きやすい仕組みづくりを進める
- ・子どもたちの意見や考えを学運協に取り入れ、一緒に考える

- 
- ・CSの取組等を分かりやすく発信する
 - ・CSはあくまでも道具、大切なのは校長先生のビジョン
 - ・教職員の異動に左右されない学校と地域の関係づくりを
 - ・各学校により、子どもや地域等の現状や課題等は全く違う。各学校らしさが一番発揮できることを、できることから始める

【熟議より】…一部抜粋…


木本さんの講演を受けて、「充実した学校運営協議会にするために、大切にしなければならないことは何か」～それぞれの立場・視点から～というテーマで、3グループで熟議を行いました。出された意見の一部を紹介します。




- ・「三者が子どもの実態やめざす子ども像を共有する。」
- ・「学運協が子どもたちの思いを、さらに受け止めることができるようにする。」
- ・「三者をつなぐ役割が必要(地域学校協働活動推進員)」
- ・「自分たちが住む地域を子どもたちが好きになり、学校や地域のよさを子どもたち自身が発信できるようになることをめざす。」
- ・「無理なく継続していくことが大切。」
- ・「地域学校協働活動カリキュラム(CSカレンダー)を学運協で位置付け、常にブラッシュアップする。」
- ・「CSの取組の様子等をもっと積極的に発信する。」
- ・「地域がめざす地域の姿を、学校でも共有する。」
- ・「学運協委員が気軽に集える部屋(CSルーム)があるといい。」
- ・「三者の相互理解が基本。学校は積極的に地域に出ていき、地域と触れ合う場を作ることが大切。」
- ・「学運協委員や教職員全体の当事者意識の向上が必要。」



【木本さんからのメッセージ】


- 
- ・「一番大切なのは、**三者のつながりをつくること**。ぜひ、懇談会のような顔と顔が見える場の設定を！」
 - ・「学校は家庭や地域から、様々な支援をいただいていることを認識する。」
 - ・「子どもの思いを、活動したその場で確認(聞く)して次につなげる。」
 - ・「時間と場所をはっきり示して、学運協委員が来校しやすくする。」

【西山教育長からのメッセージ】



「CS4年目を迎えるにあたり、自分たちは子どもたちのために何ができ、地域とともにどのような実践ができていたのか、また学校はいかに成長できたのか、そして子どもたちの成長に繋げることができていたのか、振り返ることが重要。」

YouTube限定配信



協議会の様子はYouTubeを通じて、教職員及びCSに関わる皆様を対象として、**限定配信**します。詳細は別途、お知らせいたします。ぜひ、ご覧ください！